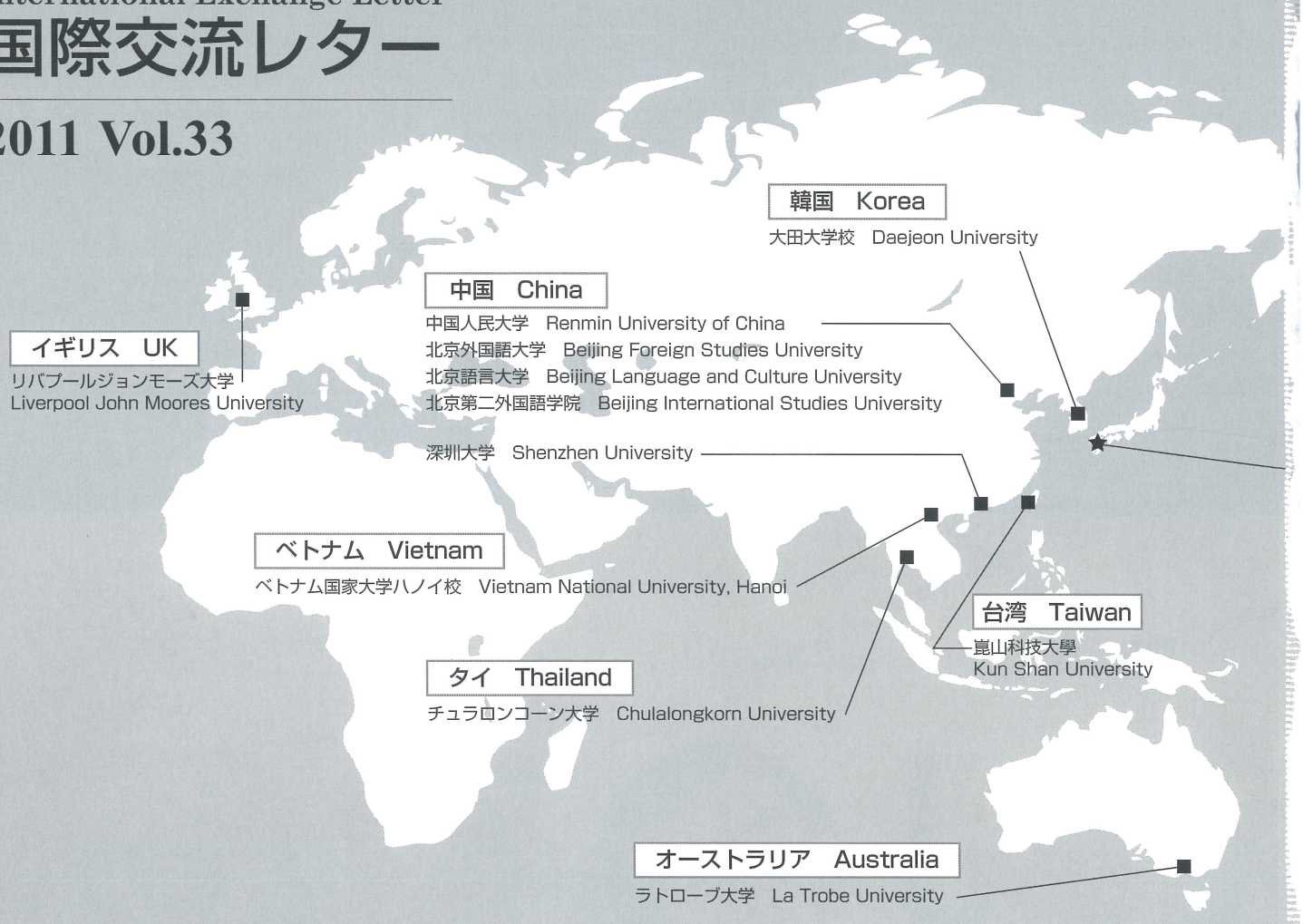
国際交流レター

2011 vol.33

International Exchange Letter

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

International Exchange Letter
国際交流レター
2011 Vol.33

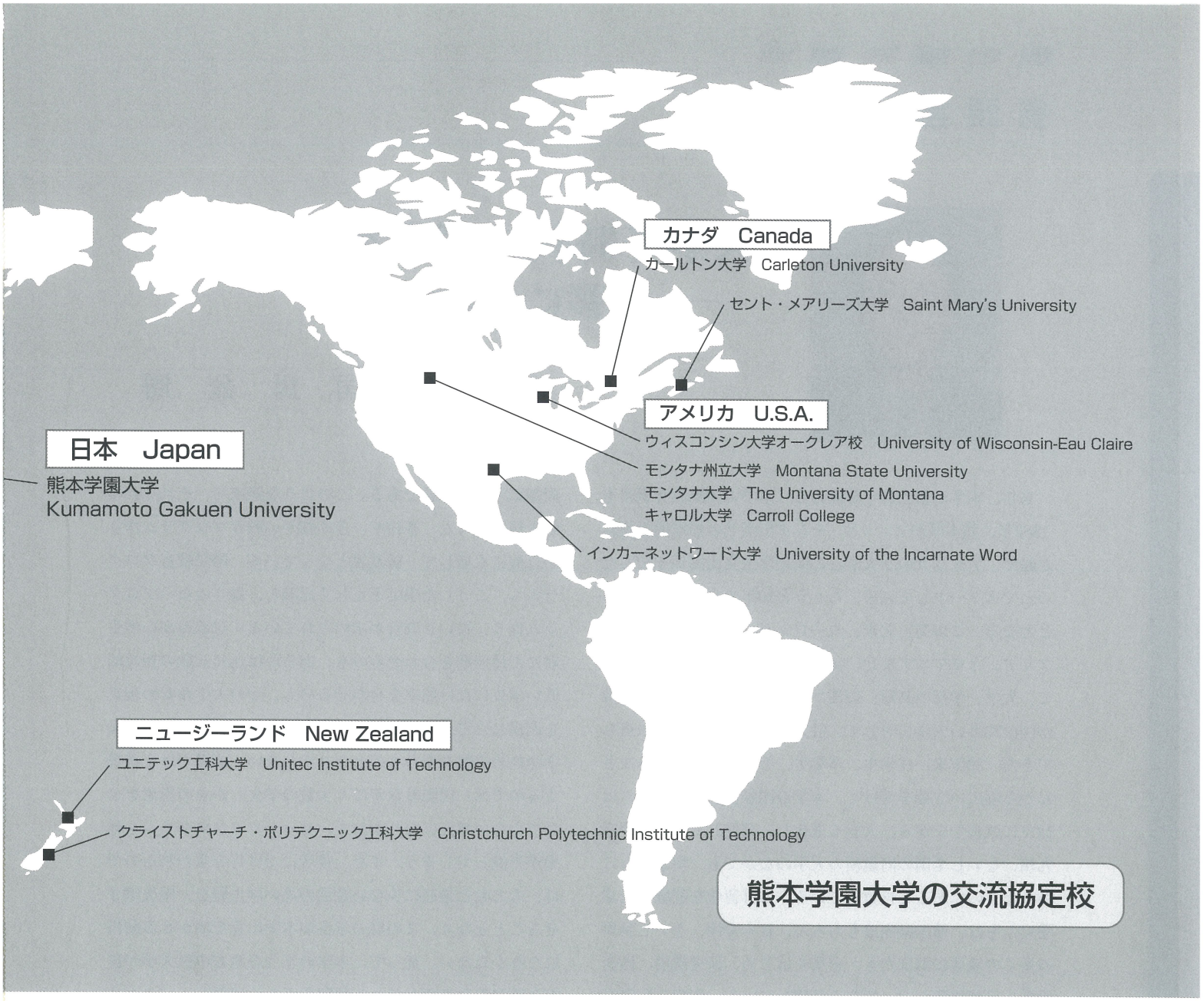


目　次

巻頭言　国際交流委員長　司　馬　公　周　2

TOPICS　3
- 新規プログラム紹介「体験型短期国際学習プログラム」
- 第21回外国人留学生弁論大会
- 新協定校紹介 クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学（ニュージーランド）
- 独立行政法人日本学生支援機構の新設支援制度「留学生支援制度ショートステイ・ショートビジット」採択される
- 卒業生がベトナム国家大学ハノイ校を訪問

留学、そしてこれから。　5
- 寺岡　里紗（国際経済学科３年）
- 森口　樹生（東アジア学科３年）
- 宮路　弓絵（英米学科３年）
- 石松　万依（商学科３年）
- 島村友香里（英米学科３年）
- 胡　維　偉（中国・北京第二外国語学院）
- Jordan Farrell（カナダ・セント・メアリーズ大学）
- 吳　孟　芳（台湾・崑山科技大學）



交換教員　崔　炳　文　大田大学校教授（韓国・大田広域市）　12
魏　浦　嘉　深圳大学教授　（中国・深圳市）
小柳　公洋　経済学部教授　（中国・深圳大学へ）
堀　　正広　外国語学部教授（韓国・大田大学校へ）

留学生紹介　叢　丹さん（商学部商学科）　16

卒業生紹介　大田黒洋介さん　大田黒瑠美さん　17

国際交流写真館　18

DATA　20
平成23(2011)年　海外往来
平成23(2011)年度　出身国・地域別外国人留学生在籍者数
平成23(2011)年　留学生参加行事
交換教員往来・研修団往来
派遣一覧
受入一覧

巻頭言

大学冬時代の国際教育
――挨拶にかえて――

国際交流委員長　司　馬　公　周

来年、本学が創立70年を迎える。本学の国際教育事業も、1982年、熊本県がアメリカ・モンタナ州との姉妹関係締結が縁で、アメリカの９大学との間で学生交流関係を結んだことでスタートして以来、ちょうど30年の歩みを数えることとなる。この間、北米、ヨーロッパ、北東アジア、東南アジア、オセアニアなど、ほぼ世界の主な地域をカバーして、大学、学部の長期、短期プログラムを合わせて、十数か国の30近い大学に対して、計1000名近くの学生を派遣してきた。30年来、在学生、卒業生、そして保護者のみなさんから幅広い支持を受けて、本学の国際教育プログラムは徐々に改善しながら、大きく進化し、発展してきた。現在、九州、ないし全国の同規模の大学のなかでも、質量ともに優れたものであると自負している。海外留学を経験した卒業生たちは、熊本県内はもちろん、日本全国、ないし世界の多くの地域に羽ばたき、企業をはじめ、研究機関、国連組織、民間組織など、幅広く活躍している。本学の国際交流プログラムは、本学のこれまでの発展に大いに貢献してきたことは言うまでもない。また、今後もますます重要な役割を果たすものであると信じている。

今、日本の大学を取り巻く環境が大きく変わってきている。入学適齢人口が年々減少しているに対して、大学の全体の数は変わらず、むしろ逆に年々新しい大学が認可され、増加する傾向にある。こうした入学志願者と大学数の間のアンバランスの状況のなかで、大学が如何にして教育の質を保つかをはじめ、多くの課題を抱えている。本学の国際交流事業も、さまざまな新しい課題に直面している。

一つは、入学してきた学生の勉学意欲の「格差」の問題である。本学を目指す受験生は依然として勉学意欲の高い学生が多いものの、相対的に意欲の高くない学生もこれまでに比べて相対的に多く入学してくることも事実である。こうした「格差」の現実に対して、意欲のある学生がより一層成長できることを保証することと、意欲の相対的低い学生に対しても、意欲を高め、最大限に成長させることは、同等に重要な課題である。このような意味で、それぞれの学生層に合った、多様で、きめ細かい教育プログラム作りが以前にも増して一層重要となっている。国際教育プログラムも、こうした現実を正しく認識し、偏りのないプログラム作り、ないし改善が求められている。意欲の高い学生層にだけ照準を合わせるのも、あるいは逆に意欲の相対的低い学生にだけ照準を合わせるのも、今の大学教育の現実を直視した考え方とは言えず、国際教育の発展、ないし大学全体の発展を阻むものとなりかねない。前者だけを重視するのでは、国際教育がごく少数の学生しかその恩恵を享受できない状況になりかねず、せっかくのプログラムも効果が半減してしまう。また、後者にだけ目を奪われるのでは、もともと量的に少ない意欲の高い学生層を一層失望させることとなり、この層の学生が本学に背を向かせる結果になりかねない。従って、本学のような地方中堅大学が置かれる状況と直面している課題を正しく認識し、バランスの良いプログラムつくりが急務の一つである。

課題のもう一つは、国内の入学希望者が減少するなか、如何にして海外の、特にアジア地域の優秀な学生を、安定的に本学に誘致するかである。海外学生の誘致は単なる経営上の都合だけではない。グローバル化が否応なしに進む今日、世界の若者とともに勉学し、彼らの学習意欲、学習ぶりを直接目にすることは、日本人学生自身の学習意欲を刺激し、自覚を持たせ、いずれ世界を相手に、世界を舞台に活躍する人材を育てるうえで最も効果的で、必要不可欠である。また、何よりも、世界の平和と発展のためにも、常に異文化の環境に身を置き、意識し、共存、共生の重要性を理解することも、いつの時代にも増して重要な課題である。ただし、海外の学生を誘致するには、海外の学生が日本に対して何を求めているのか、また、すでに大きくリードされている欧米の大学に対して、日本の大学の優勢はどこにあるかなど、ターゲット、競争相手、そして何よりも自分自身に対して、正しい認識を持つことが重要で、前提であろう。

新規プログラム紹介 「体験型短期国際学習プログラム」

本学に在学する全ての正規学部生と大学院生を対象に、より多くの学生が気軽に参加でき、国際学習、国際理解の重要性を認識し、国際的視野で物事を考えるきっかけとなるよう新規に創設されました。

特に、海外渡航経験のない学生は、初めてパスポートを取得して海外に出かけ、異文化に触れ、現実の世界を見聞してカルチャーショックを受ける人や多くの新鮮な感動体験を持つ人もあるでしょう。

短期プログラムなので、必ずしも語学学習には適さないかもしれませんが、本プログラムを契機に留学への関心を高めることも可能となるでしょう。内向き指向の学生は、本プログラムに参加して、世界に目を向け、世界を知り、国内外で活躍できる人材となれるように、自己の可能性を追求し、将来の道を逞しく切り開いて頂きたい。

第21回外国人留学生弁論大会

外国人留学生弁論大会が2011(平成23)年6月11日(土)、学生会館4階多目的ホールで開催され、今年は5カ国8名の留学生が参加した。会場には学生をはじめ、学内関係者や市民ら約80名の聴衆が集まり、熱弁に聞き入っていた。

最優秀賞は、「昼寝をしない練習」をテーマにスピーチをした中国・深圳大学からの交換留学生羅夢霞さんが受賞した。昼寝の習慣をつけさせる中国と小学校へ上がる前に昼寝の習慣をやめさせようとする日本の違いの発見に驚き、昼寝の効用を説き、健康維持と長寿にはやはり昼寝がいちばんと締めくくった。

聴衆の投票によって選ばれるオーディエンス賞は、中国・北京第二外国語学院からの交換留学生邹乔生さんが晴れて獲得した。

＜後列左から＞松永築熊本県国際課課長補佐(審査員)、司馬公周国際交流委員長、松崎昇熊本市シティープロモーション課国際室室長(審査員)
＜前列左から＞邹乔生、サラ・リーチ、羅夢霞、姜炫求、ディン ティ ホン ズエン、ユーセン・リアン、アレクサンドリア・ドゥガール、韓簫

審査結果

最優秀賞	国際経済学科3年	羅夢霞(ラムカ)	China(中国)	昼寝をしない練習
優秀賞	東アジア学科2年	邹乔生(スウキョウセイ)	China(中国)	今、夢を見ている
	英米学科4年	Dugal, Alexandria(ドゥガール アレクサンドリア)	Canada(カナダ)	カリブでの冒険
敢闘賞	経営学科3年	韓簫(カンショウ)	China(中国)	私たちはあなた方と共に同じ
	東アジア学科3年	Dinh Thi Hong Duyen(ディン ティ ホン ズエン)	Vietnam(ベトナム)	「愛国心」について私の考え
オーディエンス賞	東アジア学科2年	邹乔生(スウキョウセイ)	China(中国)	今、夢を見ている

新協定校紹介　クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学（ニュージーランド）

クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学（Christchurch Polytechnic Institute of Technology・略称CPIT）は、ニュージーランド南島のクライストチャーチに位置し、1906年に創立された国立大学。100余年におよぶ教育実績があり、200種類以上の教育課程を持っています。学生数は、約25,000人。

平成22(2010)年11月に現地視察と相互協議を行い、平成23(2011)年４月に協定が結ばれたばかりの一番新しい協定校です。平成23年から学生派遣の応募を開始し、平成24(2012)年春にはCPITから第１期の交換留学生を迎える予定。

CPIT学生議会棟

CPIT教務棟

独立行政法人日本学生支援機構の新設支援制度「留学生支援制度ショートステイ・ショートビジット」採択される

留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）は、学生の国際的な流動性が高まる中、高等教育機関が実施する３ヶ月未満の学生受入、派遣のプログラムに対し国際的な視野を有する学生の育成を促進するとともに学生相互交流プログラムや大学間ネットワークの構築などに寄与し、高等教育機関の国際化を促進することを目的に平成23年度に新設されました。

初年度は、学生受入7,000名、学生派遣7,000名枠で募集があり、本学からは、商学部の「タイにおけるフィールドワークと経営学を通じた国際交流プログラム」と社会福祉学部の「国際的福祉人材養成プログラム～高齢者が取り結ぶ日独福祉文化交流～」が採択されました。

卒業生がベトナム国家大学ハノイ校を訪問

本学園の創立70周年記念事業プレ企画「学長と行く社会人のための海外研修旅行」で同窓会志文会会員を中心に15名が「ベトナム・カンボジア」の交流大学を訪問し現地での交流を深めた。ベトナム国家大学ハノイ校とは2000年11月、大学間交流協定の締結以来、交換留学生の受入は11回目を継続している。当時からベトナム国家の政策決定に関与する国を代表する最高学府だ。

チン ティ フォン タオ先生には宿舎ホテルに早朝からお迎えを頂いたが、挨拶を交わすうちに私達団員の公式訪問前の緊張もややほぐれた。大学到着後、建物が林立する中を抜けて外国語学部棟の交流会の部屋に案内され、グエン副学長、国際協力部代表カーン先生の歓迎挨拶を受けた。「ハノイ校はベトナム国家の教育・訓練省の直轄運営の大学で、今も日本大使館・日本の企業にはお世話になっている。ベトナム国家に貢献する大学のトップとして、大学は今も活躍中である。熊本学園大学とは従来の交流に加えて、経済関係についての協力関係も築きたい。経済をテーマに教員の交流や共同研究もしたいし、ベトナム事情・文化についても学習してもらいたい。」と熱く語りかけられた。2007年受入の交換留学生のチャン ティミー先生（現在はタオ先生と同様に日本語日本文化学科教師）には流暢な日本語で通訳をしていただいた。日本の印象としてどんな田舎に行っても塵や埃がない、とのグエン副学長の言葉もうれしく感じた。ハノイでは現国際空港が日本のゼネコンによる工事で現在の８倍規模へ拡張工事が進んでいたが、隣接する中国南寧市は熊本県の姉妹都市でもある。（訪問団主務　星子三郎　記）

両大学トップと訪問団員

「留学の経験をこれからどう活かしていくのか ～My Missoula days told me who I am ♡～」

経済学部　国際経済学科　3年　寺岡里紗（てらおかりさ）

【2010年8月～2011年5月アメリカ・モンタナ大学へ交換留学】

私は2010年8月～2011年5月にアメリカ、モンタナ州ミズーラにありますモンタナ大学（以下UM）に交換留学させていただきました。残念なことに熊本学園大学からのUM派遣は私で最後ということになってしまいました。そこでミズーラで学んだことをぜひここで皆様にお伝えできたらと思っております。ミズーラは独りで初めてアメリカを訪れた私を優しく包んでくれた街です。街の人々は知らない人でも通りすがりに、微笑んでくれて「やあ、元気？」と声をかけてくれます。BIG SKY COUNTRY と呼ばれるだけあって、大自然に囲まれています。学校のすぐ裏にはマウント・Mと呼ばれる山があり、20分ほどで登ることができ、そこから観る満天の星空と街の夜景はいつも元気をくれました。冬のミズーラはまた違った一面を魅せます。気温が氷点下20度まで達し、さらさらの雪が降り積もりスキーやスノーボードのスポットとして有名でした。そんな街で一年を過ごしてみて、英語力向上はもちろんのこと、私はいつの間にか優しく素直に生きることが自然と出来るようになっていました。自分の気持ちに素直にしたがって広く高くのびのびと笑顔で留学生活をおくっていました。

留学生活の中で、世界中からの優しさを感じた出来事がありました。それは、留学期間中の3月11日に起こった東日本大震災に向けて取り組んだ PRAY FOR JAPAN のボランティアでのことです。イベントで書道を教えたり、幼稚園に折り鶴を教えに行ったりしてたくさんの募金が集まりました。私は東北出身ではありませんが、日本人ということで、話したことのない寮生やアメリカで出会ったほとんどの人が「日本人？家族や友達は大丈夫？すべてのことが良くなっていくことを願うよ」と声をかけてくれました。アメリカ人だけでなく、いろんな国籍の人から温かいメッセージをもらいました。この時、国と文化は違っても人のもつ感情や気持ちは一緒で、世界はひとつなのだと実感いたしました。留学先で見たこと感じたことはすべてが私にとって大事なことでしたので、アメリカで私が抱いた感情や学んだことを忘れず胸に刻んでおきたいと思っております。これからも、アメリカで見つけた私の大好きな自分自身の生き方を日本でも活かせていけたらなあと思っております。

最後に留学の成果の一つとして、私はこの留学で夢を具体的にすることが出来ました。夢実現に向けて帰国して半年が過ぎた今では、新しく6つの資格を取得することが出来ました。ここまで自分自身の目的のために貪欲になれる私になれたのも、この留学がきっかけでした。ちっぽけなプライドや恥ずかしさも捨て、無我夢中で教授のもとを訪ねたことや納得いくまで質問した日々を思い出します。これから自分の進みたい道を歩んでいけるよう、走り続けたいと思っております。のびのびと範囲を決めず広く、自分らしくがんばっていきたいです。最後になりましたが、この留学のご支援をいただきました熊本学園大学学長をはじめ、国際教育課の皆様に感謝いたします。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

旅行で訪れたハリウッドにて

「留学を通して見えてきた私のビジョン」

外国語学部　東アジア学科　3年　森口樹生（もりぐちみきお）

【2010年3月～2011年2月韓国・大田大学校へ交換留学】

私は2010年3月から2011年2月までの約1年間、韓国の大田大学校に留学していました。大学がある大田広域市は、人口150万人と韓国で5番目に大きい地方都市です。ソウルから南西の釜山方面や、南東の光州方面に向かう鉄道・高速道路が分岐する交通の要衝として発展したと言われています。

私が韓国に行く前の韓国語のレベルはとても低く、今では考えられないくらいの能力しかありませんでした。最初の2か月ほどは聞き取りも難しく、何度も聞き返していたため買い物の時に店員さんから嫌な顔をされたこともしばしばありました。そんな私の韓国語の能力向上につながったのは、友人の力です。日語日文科に通っている韓国人の学生は右も左も分からない私にとても優しく接してくれました。私の韓国語は彼らと遊んだり、飲みに行ったりしているうちに自然と身についていったと言っても過言ではありません。また儒教文化が色濃く残る韓国では、お酒を飲むときのマナーも日本に比べて厳しく、目上の人のコップが空になったらすぐにお酒を注いだりと大変勉強になりました。お酒を飲むことによって恥ずかしさが薄れ、何度言い間違えても恥ずかしくなく会話の練習になりました。

春学期が終わり、夏休みくらいになると韓国語の能力も着実に向上し、簡単な通訳が出来るようになりました。数年来の知人が代表を務めている、ソウル近郊の市民団体から日韓の歴史問題について2週間のワークキャンプがあり、日本からの参加者もいるため通訳兼スタッフとして参加してみないか、と誘われました。このような機会はなかなか無いと思い、すぐに承諾。人生初の本格的な通訳のお仕事となりました。

青少年キャンプに参加（筆者は右）

通訳の内容は歴史の問題がほとんどを占め、非常に複雑でした。しかし、日本語と韓国語では共通の漢字語が多いため、漢字の読み方を韓国式にすると伝わることが多い事に気が付きました。このコツをつかんでから日ごとに通訳がスムーズに行えるようになっていきました。私が漢字語に強くなったのはこのワークキャンプのおかげであると言えます。

その後も授業や友人を通して韓国語の勉強を続け、2月に帰国しました。帰国後も学園大での授業や、韓国にいる友人と定期的にチャットで話したりして能力が落ちないように努力しています。また、今年も夏休みに韓国を訪れ、通訳として日韓青少年平和キャンプに参加しました。そこで昨年に比べて通訳のスキルが向上したことを再確認することが出来ました。

さらに、キャンプから帰国後に本学国際教育課からの紹介で、サッカーJリーグ・ロアッソ熊本所属の韓国人選手の通訳をさせていただくことが出来ました。実際に試合会場でヒーローインタビューの通訳を行ったり、新聞や雑誌のインタビューの通訳も行ったりしました。日韓のサッカー用語の違いや効率の良い通訳方法など、とても勉強になりました。

ワークキャンプやサッカーの通訳を通して、私の将来のビジョンも大きく変わってきました。今までは通訳という仕事は大変でキツいものだと思っていましたが、大変ではあるものの非常にやりがいのある仕事だという事が分かり、異なる言語話者をつなぐ「架け橋＝通訳」になりたいと考えるようになりました。

私は学園大を卒業後、一人前の通訳者になるために韓国の大学院に進学したいと考えています。留学や学園大で経験したことを最大限に活用しながら、これからも勉強を続けていきます。

「私のこれから」

外国語学部　英米学科　3年　宮路弓絵（みやじゆみえ）

【2010年8月～2011年4月カナダ・セント・メアリーズ大学へ交換留学】

私が留学という経験を通して強く心に残ったもの、感じたものはたくさんありますが、これからそれらの経験をどう生かしていきたいのかという考えを2つ紹介したいと思います。1つ目は就職への視野の広がりです。私は語学学校に通っていたこともあり、アジア諸国はもちろんのことヨーロッパから南米、アフリカ人の友達が出来ました。また、私のルームメイトはルーマニア人でした。私はルーマニアという国の存在は知っていてもその国の中身は何も知りませんでした。例えば、私は彼女からルーマニアの首都はブカレストで、ルーマニア語とフランス語は似ておりルーマニア人の多くはフランス語を喋ることができる、などの一般的情報から、ある程度の学力を持っていれば無償で大学まで行くことが出来る、などの教育制度、そして、ルーマニアが抱えるジプシー問題などの政治的問題などを教わりました。カナダという国に居て、さまざまな国の人々と出会い、日本とは違った視点やそれぞれの国事情を知り得たことは私にとって、とてもプラスになりました。主に物事に興味・関心を持つようになり、そして視野が広がったことによって今までとは違う視点で物事を見られるようになりました。今までは他国のニュースに興味がなかったのですが、留学をして世界中に友達ができ、その国の知識も増えたこともあって、今では外国事情を自分のことのように気にかけるようになりました。また、これまでは英語に関連した職業に就くことしか考えていませんでしたが、ビジネスをカナダで学ぶためにまず英語を勉強している友達や、今の専攻科目はひとつの踏み台で将来は違うものを専攻すると話す友達の話を聞いて、語学を生かした企業への就職はひとつの方向性であり、それだけではないのだと捉えられるようになりました。このような変化は、就職を考える上で非常に役に立つと思います。好奇心の増進は、一般常識や時事問題の知識の幅が広がるし、視野の広がりは、就職への考え方も柔軟になるからです。

2つ目は精神面と積極性の向上です。カナダに来たばかりのころは英語もよく聞き取れず、授業中も自分の英語に自信がなくて、積極的に発言出来ませんでした。しかし、クラスメートたちの勉強への意欲に刺激を受け、そして半端じゃない量のエッセイやプレゼンテーションの宿題、発表、試験などを（あまりの辛さに夜な夜な泣きながら）こなしていくにつれ、徐々に授業中に発言出来るようになり、精神面もかなり鍛えられました。最後には、授業中の発言すら出来なかった私が、300人もの中から卒業生代表に選ばれ大勢の人の前で代表スピーチをすることができました。異文化、そして他言語の世界に放り込まれ、そこでの辛さや大変さを体験し、乗り越え、成長を認められたことは何よりもかえがたいです。そして、その経験は私の今の学校生活にも生きているし、今後にも生かされると確信しています。以前は、Aを取るために授業を受けていましたが、今はもっと知りたい、学びたい、という気持ちで積極的に授業を受けています。また、留学での経験で精神が強くなったことは就職活動を乗り越えるために必要な、めげない強さの糧になると思います。

友人達と（筆者は左）

留学、そしてこれから。

「短期留学ホームステイプログラムで学んだこと」

商学部　商学科　3年　石松万依（いしまつまい）
【2011年2月～ホームステイプログラム ニュージーランドコースに参加】

私は以前から外国に関心を抱いていて、このホームステイプログラムに参加する以前にもいくつかの国を旅行で訪れたことがありました。しかし、わずか数日間の観光ではその国の文化やそこで暮らす人々の考えなどに触れることは難しく、もっと深く外国というものを理解できるようになりたいと思うようになりました。それがこの短期ホームステイプログラムへの参加を決めた理由です。英語を専門としていない私にとって、英語力の不足という点には不安がありましたが、現地に行ってみると英語だけが会話のツールではないということに気がつき、ジェスチャーや笑顔で乗り越えることができました。

初めの頃は、学校までのバスに乗るのも不安で一杯でしたが、慣れると少しずつ自信がつき、一人買い物に行くことも平気になりました。大学のクラスでは、人種も年齢も様々な学生たちとゲームをしたり、それぞれの国の文化や習慣を話しあったりしました。この授業を通して、私は自分が自国である日本の事をあまり理解していなかったということにも改めて気がつき、外国のことを学ぶだけでなく、もっと自分の国の文化、ニュースや経済についても知っておかなければならないということを感じました。

この一ヶ月間、私は毎日笑って過ごしていたと思います。初めは不安もあった留学でしたが、その不安を乗り越え、外国での生活を笑顔で過ごせたことは私にとってひとつの自信にも繋がりました。帰国後も東日本震災ボランティアに参加したりなど、以前にも増して積極的に物事に取り組む姿勢を大事にするようになったと思います。

今後はこの留学の経験を生かし、日本へももっと目を向けるようにし、また何事に対しても常に積極的な姿勢で挑むことを忘れず、自分の世界を広げていきたいと思います。

愉快なクラスメイトたち（筆者は前列左）

「私の挑戦」

外国語学部　英米学科　3年　島村友香里（しまむらゆかり）
【2011年2月～ホームステイプログラム オーストラリアコースに参加】

平成23年2月から1ヶ月間、オーストラリアへのホームステイ語学学習プログラムに参加しました。海外へ行ったことがなかった私にとって、この初めての留学は新たな挑戦であるとともに、毎日新しい人や物、言葉と出会いがあり、それらすべてが新鮮なものとなりました。これらのすべては「関心・意志・行動」によるものです。

留学先での1ヶ月、今まで当たり前であると思っていた自分の常識が通用しないこともあり、人それぞれ顔や声が違うように、考え方や捉え方が違うことを改めて感じました。また、毎日英語でのコミュニケーションが必要とされましたが、英語に自信がないから使わないのではなく、伝えたいから英語を使うというように、失敗を恐れず会話することができました。足りない部分があれば次に活かせるように努力をし、目標ができます。上手くできるかという結果だけでなく、伝えたいという積極的な志と行動力が重要であったと思います。一人一人がそれぞれ異なった経験や考え方を持っていて、それらのレンズを通して物事を見るので相手と全く同じ立場に立つことはありません。本当の意味での“伝える”ことは容易なことではないでしょう。しかし、相手がどのような立場にいるか、気持ちを考え可能な限り近い立場に立つことはできます。そうしようとする意志と一歩踏み出す行動力、そして何よりもまず、関心を持って物事や人と向き合うことを学びました。

残りの学生生活、また社会であらゆることに関心を持ち、自分の可能性を信じて挑戦していきたいです。目標を持って行動し、成長し続ける社会人を目指して頑張ります。

先生と友達と（筆者は右）

「大学生活を豊かにさせよう」

胡　維　偉（コ イ イ）

【2010年３月～2011年２月中国・北京第二外国語学院交換留学生】

2010年３月から2011年２月までの１年間に、私は交換留学生として日本の九州にある熊本学園大学で勉強していました。留学生活が終わり、国に戻ってきてもうすぐ１年が経とうとしますが、日本に滞在している時のことを時々思い出し、とても懐かしく感じられます。充実した留学生活を送ることができ、私に青春と活力に満ち溢れる大学生活をくれた学園大に深く感謝します。

私は、北京第二外国語学院（二外）の日本語学科の学生ですから、毎日日本語を勉強するのはもっともなことだと思っています。今回の留学をきっかけに、以前にまったく触れたことのない専門知識を学ぶことができました。

例えば、日本事情で日本の社会保障制度について先生の話をいろいろ聞かせてもらいました。いつも日本のアニメ、漫画などから日本のことを理解してきた私にとって、日本の社会保障制度という角度から日本社会の様子を知っていくのは初めてで、しかも面白かったです。テキストで一番印象に残っている一言は「国民誰でも、いつでも、どこでも平等に医療機関にかかることができる」というものです。それを完全に実現するまでにはまだまだたくさんの課題を解決しなければならないけれども、貧富の差に関係なく、誰でも受けられる医療機関作りを努力している日本政府に感動しました。

また、経済史の授業で日本を始め、イギリス、アメリカ、世界における大企業の歴史を学ぶことを通じて、何をしても固い決心とたゆまぬ努力が必要だと分かりました。中小企業論のゲスト講義で、日本の信用組合についてのことをだんだん分かるようになりました。

こうした授業を受けたことが私に新しい扉を開かせてくれました。自分が認識できる知識の世界が広がっていくような気がしました。

大学生活が多彩豊富であるはずだということを日本で始めて意識したのです。留学中、たくさん体験ができて、本当にいい経験になったと思います。

「サムライ」である宮本武蔵のことに深く興味を持ち、日本に来た以上、何か日本ならではのスポーツをしたいという気持ちで、学園大の剣道部に入ることになりました。剣道部に通い、部員たちと一緒に稽古をするのは一日の楽しみでした。稽古中、剣道に関することをたくさん教えてくれたり、姿勢を正してくれたり、先輩たちの熱心さと辛抱強さがあればこそ私は剣道の楽しさを知ることができました。

熊本城で初めての和服散策や中国と全く異なるしかも楽しさ溢れるスポーツ大会や友達と日本各地に旅行することやゼミでの合宿とフィールドワークなどは私の忘れられない思い出になりました。

こんな感じで学園大の一年間があっという間に過ぎてしまいました。

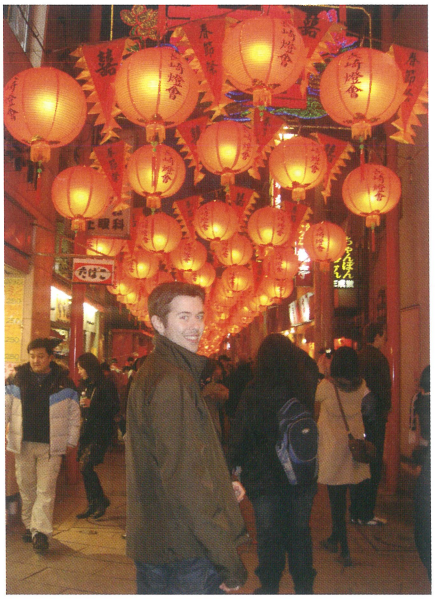
人と人の交流を通じて、その楽しさと大切さを知っただけでなく、自分の世界が本当に小さいと感じられ、もっともっと広い世界を見たいという願いが強まってきたのです。「世界の広さはあなたの心で決められる」という言葉が私は好きです。そう、これからは自分の新たな旅のために蓄えることに精を出していきたいと思っています。

大学の剣道場にて

Japan, a location for personal and professional growth:

Jordan Farrell（ジョルダン ファレル）
【2010年９月～2011年８月カナダ・セント・メアリーズ大学交換留学生】

Having recently returned to Canada from Japan I intend on representing Kumamoto Gakuen University as well as Japan itself back at my home university. Through my travels and encounters in Japan I have learned a lot more than just the language, and I feel that I experienced a different way of thinking, lived a new culture, and learned new ways of living one's own life. I now feel that traveling, networking, and learning abroad is possibly one of the best choices an undergraduate student can make, and I will promote that throughout the rest of my university career, and my life post-graduation. Now that I am back in Canada and studying at my home institution I am currently the vice president of the Saint Mary's University Japanese-Canadian Cultural Exchange Society (JCCES), a society whose goals are to ensure that there is as much interaction between Japanese students studying abroad and students who are interested in learning and interacting with them. As Vice President I will help ensure that Japanese exchange students enjoy their time abroad and make many good friends and good memories which will last them a lifetime. As for any Canadian students that are interested in learning Japanese language or culture I will be available to talk to and help guide them towards the study abroad program; this information could include logistics, budget planning, and even essential facts or trivia regarding Japan. Getting ready to study abroad can be confusing and even frustrating at times so I will make sure I am easily available to answer any questions an interested student would have regarding the subject.



長崎ランタンフェスティバルにて

From a professional level, I feel that my Japanese comprehension, as well as the cultural influences of Japan will only count as an asset toward my career. Having the dedication and drive to learn a language such as Japanese shows that you have discipline, and you're dedication to learning is unmatched. Much studying is required, as Japanese is very different from English. I know I was a much more laid-back student before I studied abroad in Japan, and upon completing a one year term at Kumamoto Gakuen University I know I have changed for the better because I procrastinate much less, and I am willing to put much more effort into my studies. Furthermore, just experiencing another countries way of life and thinking can only help a person's professional growth, and of course acquiring certificates of language comprehension also add to this in a physical and measurable manner. So as a developing global citizen, gaining any worldly experience is necessary these days as we slip into a globally competitive job market. As an information systems major I have taken Japanese classes primarily as electives, to aid in acquiring my goals for the future. I believe I have networked well enough to secure a position at a large software company which imports data from Japan to be translated and properly stored. With my knowledge of relational database programming, as well as my Japanese comprehension abilities, I believe I'll be able to work in my field of choice quickly upon graduation. All I can say in conclusion is that if you have a solid plan for the future, and stay dedicated to learning, you can make use of what you learn in Japan in any field so long as you stay committed and network properly.

「留学生活から教えられること」

呉　孟　芳（ゴ　モウ　ホン）

【2010年９月～2011年８月台湾・崑山科技大學交換留学生】

学生時代、日本に留学する機会がありました、それは私のこれまでの人生の中で最も特別な経験でした。１年間にいろいろなことを体験し、いろいろな人との出会いこともありました。

初めて熊本に来た時の気持ちをいまでもよく覚えています。不安を感じたり少し緊張したり。「ここが私の留学生活の場なのか。」と自分で自分に問いました。

日本の生活に慣れるには、やはり時間がかかります。およそ３～４ヶ月くらいだと思います。最初、毎日大学で友達と一緒に勉強をしたり、遊んだりして過ごしました。そして、半年ぐらい過ごした後、将来のことを考え始めました。

すでに大学４年生であったため、台湾に帰国したらすぐに就職しようと思っていました。しかし、大学生から社会人に適応できるかと考えました。そして、社会人として新しい環境に慣れるようアルバイトを始めることにしました。

日本での初めてのアルバイトは通訳でした。このアルバイトは国際教育課の先生を通じて助けてもらいました。最初は難しいと思いましたが、慣れてくると難しくなくなりました。

帰国前には、もうひとつアルバイトを紹介してもらいました。聞いた時「怖い」と感じました。というのもその内容が、先生のかわりに私が講義をするものでした。国際教育課の先生が私に「先生のつもりで授業してみよう」と言いました。そして、私は授業のなかで台湾のいろいろなことを紹介しました。例えば、文化、歴史、生活習慣などです。この授業が終わったあとで、私は少し達成感があると感じていました。

台湾に帰った後、私は卒業しました。すぐに仕事を探し、およそ２週間くらいで就職しました。この間、探す時間はずいぶん短く、自分でもたいへんびっくりしました。実は台湾にいた時、ある先生から海外での留学経験があれば、仕事も探しやすいと聞いたことがありました。

でも、私はそう思いませんでした。

留学の経験というものは、履歴書の書く時に役立つにすぎない、面接の時には留学経験なんてあまり役立たないに違いない、とそんな思いを抱いていました。

なにしろ面接官と話す時は、まず応対力が大切です。面接者の私は、どうやって具体的なことを伝えるか、注意すべきことはなんだろうかなどを考え、それは履歴書より重要だと思うのです。面接への応対については、アルバイトの経験から学びました。そして、私にとってアルバイト経験はもっとも貴重でめずらしい経験だったのです。

今の仕事は、自分にとって理想的な仕事だと思います。毎日、何かしら新しいことを学び、成長できる喜びも感じています。海外での展覧会を開催する際、いろいろな人と話すこともできる、私にとってそれはたいへん面白いことです。

現在の仕事は、日本語はあまり使わないので少し残念です。しかし、大丈夫だと思います。

留学をきっかけに、ほかの国の風土を知っている、そして国際感覚を身につける。グローバリゼーションの時代で幅広い視野と国際感覚は大切だと思っています。学生時代、先生たちは自分の競争力はどうやって強くなるかと私たちに問いました。あの時の私は、まだ社会人ではないため全然わかりません。しかし、今は学生と社会人の違いについて少しわかりました。学生にしろ、社会人にしろ、どんな生活を送りたいのか、それが重要な課題だと思います。

熊本下通りにて

「熊本で日本を感ずる」

大田大学校教授　崔（チェ）　炳（ビョン）　文（ムン）
【2010年３月～2011年２月韓国・大田大学校　交換教員】

日本は知性の国で韓国は感性の国です。

家内とともに御船の華ほたる温泉を尋ねたある日、道に迷いました。おりから自転車に乗って通り過ぎるお婆さんに道を聞きました。お齢は80歳以上に見え、厚いシニアグラスをかけていらっしゃいました。お婆さんに申し訳ないながらも全然期待をしていなかったのですが、意外にも正確にたいへん親切に道を教えてくださいました。「失礼しますが、ほたる温泉はどちらですか？」「ほたる温泉？たぶんそれは華ほたる温泉ではないでしょうか。」「あ、そうかもしれません。」「うーん、温泉に行く方法がふたつあるのだけれど、左に行ったら時間が１分ぐらいもうかかるうえに、簡単に行くことができますよ。信号機を二つ越えて、右側の丘の上に華ほたる温泉が見えますよ。」韓国のお婆さんからは、こんなに詳しい案内をもらうことはなかなかないことです。

もうちょっと行けば温泉があるのだが･･･。暑いなか道を尋ねながらとは、苦労するなぁ、大丈夫かな？と心配しながらの道中でした。

テレビのゴールデンタイムに、時事問題や教養問題を娯楽的に説明する番組も印象的でした。教授の出題や東大の数学問題をタレントたちが解く番組を見ながら、日本人の知識に対する関心の高さを感じることができました。また、推理ものに対して人気が高いことも韓国とは違う点です。こんな知的な国民性が日本を強大国とし発展させた原動力だったろうと思います。

桜島を背に

日本は仕上げが徹底的です。

私はゴルフが大好きで、中野先生のお誘いを受け熊本学園大学ゴルフ大会に参加し、晴れて優勝しました。この優勝は自慢でもあります。日本では最後のパッティングでコンシード（韓国ではOKと言います）を与えないのか、ホールインするまで何回もパッティングをします。そのためか大会記録に140打というものもありました。韓国ではコンシードのため100打を大きく超すということはありません。韓国では優勝した人が試合の夕方、ビアパーティーに大会参加者皆を招待しておごるのが慣例です。私もこの日優勝商品として石鹸をたくさんいただきましたので、堅く覚悟をしていましたが、大会が終わると皆家に帰ってしまいました。中野先生から日本では特別にパーティーはしないという説明を聞いて安心（？）した次第でした。

日本は伝統を維持して、韓国はすべてのものを新しく作っていっています。

早くに先進国になった日本は非常に安定した国であり、旧きものを伝統でよく守っています。夏に熊本城の祭りに行きました。山鹿、玉名、御船から来た地元の住民たちによる伝統の舞踊、歌、太鼓の公演はとても印象的でした。熊本城を地域の住民たちの寄付で修復したことも、日本人の伝統愛をよくあらわしている例です。韓国は、過ぎた半世紀の間に新しいことを創出することに力を傾けてきました。経済発展が最大の目標だったからです。最近では文化遺産の大事さを少しずつわかってきているところです。

この原稿の執筆のために一年間熊本で撮った写真のアルバムを取り出してひろげて見ました。水前寺駅通り、下通りや熊本学園大学の校庭の風景とかおりが、あの時のように鮮やかによみがえります。

私の熊本の思い出は、すべての方々に対する感謝に満たされています。大学の先生たち、国際教育課の職員たち、熊本の人々皆が懐かしいです。

私の心の風景

「二度目の熊本」

深圳大学教授　魏（ウェイ）　浦（プー）　嘉（ジア）
【2011年３月～2011年８月中国・深圳大学　交換教員】

2011年３月から８月まで、深圳大学からの交換教師として半年間熊本学園大学に滞在した。実は、熊本は二度目だった。一度目は数年前のことで、日にちや滞在期間はもうすっかり忘れたが、留学生時代の観光旅行だったことは確かだ。観光客だから、熊本の名所を数箇所回り、お土産を買って帰った。その時、熊本城のどこかが「工事中」だったようで、あまり見学できなかった。それにしても、城の石垣の武者返しの曲線が妙に印象に残った。また、阿蘇山の火山口の液体の黄緑色や硫黄のにおいも記憶として鮮やかだ。そうだ、熊本の名物、馬刺しも食べたような気がする。とにかく、当時の私は満足した、幸福な観光客だった。私は「よかった。熊本を満喫した」と思っていた。

しかし、ちょっと待って。「熊本を満喫した」？

どうして今、それを書こうとするとき、私はためらいを感じたのだろう。

今回の滞在は３月から８月まで、半年もあった。熊本城に何回も行った。特に桜の季節に、思いだすたびに行った。武者返しの曲線はやっぱりすばらしかった。記憶どおりにすばらしかった。真っ青の空、うすいピンク色の満開の桜、天守閣の雄姿。私は時間をかけて熊本城を一周してあらゆる角度から天守閣などを眺めた。どこから見ても美しい絵になると気がついた。城の内部も見学できた。昭君の間が豪華絢爛で眩しい。

霊厳洞に行った。浦島太郎や羽衣などの民話を別として、私が読んだ最初の日本の読み物は吉川英治の『宮本武蔵』だった。乱読だった中学生時代、手当たりしだい小説を読んでいた。ドストエフスキーから任侠小説まであらゆる文字に夢中だった。『宮本武蔵』は長くて面白かった。その序言か後記で、宮本武蔵が歴史上の実在した人物であることがわかった。彼は最後の晩年を熊本で過ごした。だから、その修行の地だった霊厳洞にどうしても行きたかった。そして、行った。静かで緑いっぱいの山の奥だった。その洞窟の中にしばらく座り、山川の霊気を感じてみた。

また、夏目漱石の縁の地を訪ねた。徳富蘇峰記念館を見学した。小泉八雲の旧居にも行った。市役所からもらった熊本ラーメン地図を手にラーメンを食べまわった。……

半年、長いと思ったが短かった。光陰矢の如し。半年も熊本に滞在したのに、「熊本を満喫できた」とは言えなくなった。あれもこれもまだしたい、もう時間がない。古代史に於ける熊本（私は邪馬台国九州説には賛成）、近代歴史に於ける熊本、もっと知りたかった。熊本学園大学の図書館にもう少し長く居たかった。親切な職員にもできればもう一度感謝したかった。

何よりも熊本学園大学の素敵な先生方にもうすこし突っ込んでいろいろおうかがいしたかった。せっかく知り合ったのにお話を拝聴する時間が足りなくて悔しい。

二度目の熊本は、私は満足できなかった、不幸な滞在者だった。歯を噛む思いで私は熊本に「再見」と言った。「再見」だから、「再度見る」、「もう一度会おう」と云う意なのだ。そうだ、もう一度熊本に来よう、もう一度熊本学園大学のみんなに会おう。

国際教育課スタッフと（筆者は左から２番目）

「深圳大学交換教員の思い出」

経済学部教授　小柳公洋（こやなぎきみひろ）

【2010年８月～2011年２月の半年間、交換教員として中国・深圳大学へ派遣】

平成22年８月25日から23年２月18日までの６ヶ月弱、中国深圳大学に交換教員として在籍した。同大学外事処に所属し、外国語学院日本語科へ出講した。講義科目は商務日語、いわゆるビジネス日本語である。週２コマであった。受講学生11名（３年生10名、４年生１名）、22年９月７日からの18週にわたっての講義であった。交換教員としてはこの講義のみが義務であった。

キャンパス内の外事処所管の２LDKの教員宿舎（袖海楼301号）で寝起きし、学内の食堂を利用し、広いキャンパス内を毎日散歩した。時々学生に誘われて体育館で卓球やバドミントンに興じた。

９月の深圳市の蒸し暑さと、中華料理の脂っこさとに閉口し、食欲をなくし、５キロ以上も体重を減らした。深圳での生活に慣れるのにほぼひと月ほど要した。木陰を縫ってゆっくり歩き、中華料理の食べる順番を覚えてから、深圳生活が楽しくなった。

10月の建国記念日や２月の春節など中国の長い休日に比較的遠方への旅行をした。昆明、成都、重慶などの華南地方の代表的都市へ行った。他方、週末などには近場の広東省内とその周辺をまわった。梅州、恵州、仏山、中山、それに桂林、香港、マカオなど。

10月の半ばころから、できるだけ学生諸君とのコミュニケーションを図りたいと考え、宿舎を学生たちに開放した。当初は日本語科の私の受講生だけが来ていたが、11月になると一人二人他学科の友達を連れてくるようになり、管理学院、情報学院、物理科などの多学院の学生や大学院生、深圳市で勤務している卒業生とも懇意になった。日本語と英語を共通語にして歓談した。12月31日の拙宅でのパーティ後は、ほとんど毎晩学生たちが歓談に来てくれた。

日本語科４年Ａ組忘年会
（中段右から筆者と家内）

１月４日の最後の講義とその後の期末試験と採点などで２週間ほど要した。これで当該学期は終了し、大学は３月の初旬までの休暇に入った。関係諸先生やスタッフにお別れの挨拶をして、２月18日に上海経由で帰国した。

もともと私の問題意識は、社会主義体制の下での市場経済システムがどの程度まで可能なのか、これを現実の中国社会において見たいということであった。結論的に言えば、不満足な結果に終わった。その理由として、第１に、私の中国語が全く役に立たなかったこと、第２に、交換教員として外事処に所属し、外語学院日本語科への出講であったこと、第３に、経済・経営管理関係教員との交流ができなかったこと、が考えられる。

交換教員という身分のため当初から教育に力点を置いた。正規の講義は商務日語である。主として、幕末・明治以降から21世紀の現代までの日本経済史の概略と特に第二次大戦後からの日本経済の現状と動向を主として述べた。受講学生たちに感想を聞いたら、結構難しい講義であったようである。ただ、深圳市は経済の町であり、また香港と隣接しているから、市場経済についての一定の知識は要求される。この状況は学生たちも認識していて、日本語科の学生といえども経済・管理学への関心を示していた。

それにしても、半年間の滞在は期間として短過ぎた。中国での生活および大学の仕組みなどに慣れるだけで３ヶ月かかった。やはり最低でも１年間は必要であると思った。

「大田大学の交換教授として」

外国語学部教授　堀（ほり）　正広（まさひろ）

【2010年８月～2011年８月の１年間、交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

韓国大田大学での交換教授の体験は、私の人生のアルバムの貴重な１ページとなった。困ったこともあったが、今では全てが楽しい思い出である。

生活をはじめてまず困ったことは、言葉だった。これまで留学や学会は欧米圏だったので、イタリアでもポーランドでも英語だけで困ることはなかった。しかし、韓国ではそうはいかなかった。言葉ができないということはこういうことなのかと肌でひしひしと感じた。最初の３ヶ月はバスに乗るのも地下鉄に乗るのも緊張した。しかし、その緊張感も時間と共に薄れた。

大田大学での授業は楽しかった。「韓日文化コミュニケーション」が私の担当科目だった。日本文化を中心に韓国文化と比較しながら授業を行った。授業以外では日本語劇の指導をした。学生は日本のテレビドラマを録画し、台詞を全て書き取り、30分の劇に編集した。その脚本をもとに発表会まで毎週２度集まって練習をした。私の役目は学生の作った脚本の日本語に手を入れ、学生の台詞の発音や仕草をチェックすることだった。発表会の１週間前になってもなかなか台詞が覚えられなくて泣き出す女子学生もいたが、最終的には素晴らしい日本語劇を演じた。その夜の打ち上げでは学生たちと美酒を味わった。３次会まで付き合ったが、４次会は体力的に無理だった。

学生とはよく飲みに行った。数人の学生とは親密な間柄となり、何度かソウルで一緒に数日間過ごしたこともあった。韓国の３、４年生の男子学生はほとんどが２年間の兵役義務を終えているので、大人のつきあいができた。

大田大学の先生方とは英語で交流できた。というのは、アメリカの大学で修士号や博士号を取った先生方が多かったからだ。月曜日はイギリス人の先生と火曜日は日語日文学科の先生と昼食を取り、その後１時間ほど散歩した。また、週に１、２度は必ずどなたかと夕食を共にしたので、単身ではあったが、退屈はしなかった。

大田大学の交換教授として単身赴任することははじめから決まっていた。妻は数年前から、近くに住んでいる妻の両親の介護のため１日も家を空けることができなかった。妻は一度も韓国に来ることができなかったが、かわりに多くの日本人が会いに来てくれた。教え子では、一昨年卒業し、九州大学大学院修士課程に所属する鉾之原秀平君がお母様と一緒に来てくれた。国際交流基金の奨学金を得て日本語教師のアシスタントとして２年間渡米することになった。お母様は、私が学部長だった４年間、毎年鹿児島の保護者懇談会でお話ししていたので、是非息子と一緒に挨拶がしたいということだった。他にも、友人、研究仲間、教え子などを含めて25人が日本から来てくれた。韓国での生活に彩りを添えていただき感謝している。

アパートの隣人である李さん一家にもお世話になった。李さんは日本語が達者なので一緒に食事や旅行によく行った。また、週に１、２度は日本語ができる中学生の息子さんが奥様の手料理を差し入れてくれた。

帰国に際し、韓国滞在中に出版した本を記念に図書館に寄贈した。親しくしていた図書館長の任相一先生の計らいでこれまで出版した10冊の本も一緒に大田大学図書館に寄贈することになった。この寄贈の話は大田大学の新聞に掲載された。また、私の帰国後、図書館で私の本の展示会があったらしく、任先生がその時の写真を送ってくださった。その写真が下のものである。

新聞やテレビで韓国と日本の政治的な摩擦が報道されると、韓国でお世話になった方々の顔が浮かんでくる。韓国のことを語るとき「近くて遠い国」という言葉が引用されるが、私にとっては「近くて親しい国」である。このような機会を与えていただいた熊本学園大学と大田大学に心から感謝の意を表したい。

私の本の展示会のパネル

「20歳になった」

商学部　商学科　1年　叢（ソウ）　丹（タン）

2009年秋に私は夢を持って日本へ留学に来ました。やがて3年目になります。初めて日本に来た時、友達もいなくて、日本語も全くわからなくて、本当に困りました。日本語専門学校で1年半日本語を学びました。

日本へ留学する前、私は中国で4歳から18歳まで中国の伝統的な京劇を学んでいました。京劇の勉強を続けながら、その間に外国へ留学するという考えを持っていました。18歳の私のその時の夢は、どうやって中国の京劇を広く宣伝することができるか、一生懸命に考えていました。そんな夢を持って日本に来ました。

来熊後、熊本片岡演劇道場の玄海竜二先生と交流することができました。とても嬉しいです。先生から日本の大衆演劇を教えてもらい、私も中国の京劇踊りを先生の息子さんに教えました。2010年8月、玄海先生たちと一緒に大阪で1ヶ月公演を開きました。短い1ヶ月でしたが、日本大衆演劇文化の全部を体験させていただきました。もちろん日本語の勉強もできました。

皆の前で私の小さい夢「日本で京劇を踊る」を実現することができました。日本で初めて大勢な人から拍手を頂きました。その後にまた玄海先生と熊本県内でいろいろな公演に参加しました。

中国の京劇がみんなから好かれるように、日本で一生懸命頑張ろうと決意しております。しかしそれだけで生きで行くのは難しいことだと思います。日本でいろいろな知識を身につけないといけないと考えています。

2011年の4月、もう一つの夢を実現できました。日本の大学に入りたいと思い、熊本学園大学入学試験を受け、試験に合格しました。私の大学生活が始まりました。私は次々に人生の小さい夢と目標を持って、知識のホールに入りました。

初めて学園大学のキャンパスに入った時、大学が広くてどこになにがあるのか、教室はどれなのか全然わからなかったです。しかし、先輩たちはみんな親切で優しくて、いつも声をかけてくれました。いろいろ応援してくれた先輩の中でも3年生の嶋田先輩からは一番お世話になっています。友達の作り方や授業の選び方まで教えてくれました。本当に心から感謝しています。大学の生活に慣れるのは、そんなに時間がかかりませんでした。

20歳の私にはたくさんの理想があります。真の実力は、他人よりもっと多く努力し、気力を払い、苦痛と困難を経てようやく得ることができます。20歳はまだ人生の中でも短い、若い年齢です。この精神と体力に満ちている時代、私は理想を持ち、夢を持って、学んで、もっと多い知識を得ることで自分を豊かにし、自立できるよう、しっかりと成長していきます。

現在、私は中華料理でアルバイトをしながら大学生活を過ごしています。辛い時もある。疲れた時もある。もちろん楽しい時もありますが、そんないろいろな生活の中で自分の夢をだんだんと実現できるのが、私の唯一の幸せです。

これから大学4年間で日本語の勉強だけではなく、経営方法や専門知識などたくさん自分のものにしていきたいです。卒業する3年後に備え、社会に役立つ、できる社会人の準備は今からだと強く思っています。しっかり頑張っていくことを決意しています。

競　演

素顔のわたし

「中国駐在を経験して」

大田黒 洋介（おおたぐろ ようすけ）

【平成13(2001)年3月卒業。
1999年3月～2000年2月中国・対外経済貿易大学に私費留学】

学園大在学中の北京での留学経験をぜひ活かして仕事をしたいとの思いから、中国に事業体のある会社に就職し、現在上海駐在中。早いものでもうすぐ丸4年が過ぎようとしています。それまで日本ではどちらかと言うと中国とは縁がない仕事をしていましたので、会社から中国行きの辞令を受けた時の喜びや赴任当日の夜、鮮やかにライトアップされた上海のテレビ塔（東方明珠塔）を見上げた時の感慨は昨日の事のように鮮明に思い出されます。

最近バブル抑制のために中国政府が金融引き締めを行い、中国経済の勢いが踊り場を迎えたとの一部論評はあるようですが、そこは年率10%弱の経済成長を続ける中国。日々体感する実態経済はまだまだ衰えを知らず、私も忙しい毎日を過ごしています。

また、日本では一社員だった私も、こちらでは管理職として中国人スタッフの育成も任されています。赴任当時はローカルスタッフとの意見の喰い違いで衝突する事もありましたが、私が赴任当初から日常会話程度の中国語を話せたことで、スタッフの話す日本語との間で、コミュニケーションを相互補完することができ、大きな溝ができる前に関係を修復できたのではないかと思います。今では目に見える部下の成長も私のやりがいの一つです。

一方、私は仕事柄中国各地の得意先を廻り商談を進めることが多いのですが、中国には非常にたくさんのタフネゴシエーターが居り、留学時分にはなかったビジネスを通した中国人との付き合いは非常に精神的なタフさが必要であることをしみじみ感じています。

もし、これを読まれている学生の方で、これから中国と何らかの関わりを持ちたいとお考えの方がおられれば、語学は勿論ディベート力を磨くこともお勧めしたいと思います。

現地スタッフと（筆者は右）

「上海での生活を通して思うこと」

大田黒 瑠美（おおたぐろ るみ）

【平成13(2001)年3月卒業。
1998年2月～7月中国語言文化大学に経済学部私費認定留学、
1999年9月～2000年7月中国人民大学に交換留学生として滞在】

私は学生時代、北京に1年半留学しました。

そして今は夫の赴任という縁で、上海で暮らし始め4年目を迎えています。結婚・出産し、まさか中国に来ることは予想していなかったので、赴任の決まった当初はかなり戸惑いました。

自分だけならまだしも、当時まだ2歳と1歳だった娘達を連れて、異国での育児や生活はどうしたら良いのか、かなり不安でした。そんな私の気持ちを悟ってか、上海に来る直前に下の子が発熱し、着いた翌日には蕁麻疹が出て、上海に来なければ良かったと、何度も後悔したのを覚えています。

しかし、生活するにつれ徐々に心にも余裕ができ、それからは多少の事があっても、「ここは中国、仕方ない。」と良い意味で割り切れるようになりました。

子供がケガや病気をした時、一番心強かったのは、言葉が通じたことです。夜中に高熱が出て病院に行った時も、中国語が話せたことで随分と助かりました。やはり語学はやっていて損はないと思います。

それから私が異国での生活で一番気にかけているのは、家族の健康です。もちろん上海にいる家族だけではなく、日本にいる家族や親戚も含めて、皆が健康に暮らしているからこそ、私達の上海での生活が成り立っているからです。改めて家族が健康でいることに感謝しています。

私はこちらに来て中国人の友人、知人と接するうち、中国の生活習慣や文化に、より一層興味を持ち、今は薬膳や中医学の勉強をしています。自分の家族や友人にはもちろん、出来れば多くの方に対して私の知識や経験が活かせる様に、これからも努力し続けていきたいと考えています。

子供たちと

国際交流写真館

Kimono Experience

Sports Meeting

Kumamoto City Fire Service

Welcome & Farewell Party

Sports Festival

Field Trip

平成23(2011)年　海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月	リバプールジョンモーズ大学（中川朋美、小西実加）、北京語言大学（土屋俊秀、森田晶子）、北京第二外国語学院（古閑慶子）、北京外国語大学（池部有咲）、大田大学校（佐藤千尋、緒方志保）、深圳大学（高井智代、山口桃佳）帰国 ユニテック工科大学（田代美穂、大島三和、井上大央、中山由貴）出発	
2月	大田大学校（森口樹生帰国） 北京第二外国語学院（渡辺雄二）、深圳大学（濱田智惠、米村麻里菜）、北京語言大学(北川誉)、北京外国語大学(淋勝輝)、ラトローブ大学(髙木大地、壁村岬）出発	大田大学校（朴惠隣、金鐘龍、閔孝善、薛美撰、李華英、黄庾那、權珠熙、尹銀貞）、ベトナム国家大学ハノイ校（ホアン タン フエン）帰国 大田大学校（崔炳文先生）交換教員帰国
3月	大田大学校（田尻彩、小西史織、島津直希、家入麻梨子）出発 リバプールジョンモーズ大学（立岡由妃、本庄智美）帰国	大田大学校（朴興植先生）、深圳大学（魏浦嘉先生）交換教員来日 モンタナ州立大学（リチャード・トレバー・クラーク）、セント・メアリーズ大学（パトーン・チャトティプソンポル）、リバプールジョンモーズ大学（ジェニヴィーヴ・ウェイト）、深圳大学（陳妙雲、羅宇晴）、北京第二外国語学院（胡維偉）帰国 大田大学校（姜炫求、金旻瑩、南承妍、尹惠榮）、深圳大学（羅夢霞、韓簫）、北京第二外国語学院（邹乔生）来熊
4月	セント・メアリーズ大学（宮路弓絵、髙永倫子）帰国	ベトナム国家大学ハノイ校（ディン ティ ホン ズエン）、リバプールジョンモーズ大学（セーラ・リーチ）来熊
5月	モンタナ州立大学（川口由希子）、モンタナ大学（寺岡里紗）、キャロル大学（下城崇）、インカーネットワード大学（小川文子）帰国	
6月	モンタナ州立大学（猿渡有唯、古谷綾香）、リバプールジョンモーズ大学（千々波知子）帰国	
7月	カールトン大学（松本美紗）、リバプールジョンモーズ大学（清田航士朗）、ユニテック工科大学（中山由貴）帰国	カールトン大学（ユーセン・リアン）帰国
8月	モンタナ州立大学（赤星愛美、奥畑千愛、白角勇介）、インカーネットワード大学（久木田麻衣、濵田依里）、セント・メアリーズ大学（横山綾乃、吉里南麗沙、三好香織、勝田江美）出発	深圳大学（魏浦嘉先生）交換教員帰国 モンタナ州立大学（ジョナ・チンマン）、セント・メアリーズ大学（アレクサンドリア・ドゥガール、ジョルダン・ファレル）、リバプールジョンモーズ大学（イアン・ヒキンソン、セーラ・リーチ）、チュラロンコーン大学（トゥンラヤー・トゥンワッタナ）、崑山科技大學（吳孟芳）帰国
9月	リバプールジョンモーズ大学（元山由希）出発	モンタナ州立大学（ターナー・コルビン、ジェフリー・ブロックウィック、ジェニファー・ジョーンズ）、インカーネットワード大学（ビクトリア・エレラ、ケルシー・マクベー、カスリン・ガブリエル、ミワコ・ヨコオ）、セント・メアリーズ大学（アレクサンダー・メイ）、カールトン大学（アンナ・ファスト）、リバプールジョンモーズ大学（ダニエル・バッターワース、アンドリュー・ケンダル）、チュラロンコーン大学（タッサニーパパー・マーンアリー）、崑山科技大學（賴品秀）来熊
10月		
11月		
12月	ラトローブ大学（壁村岬）、ユニテック工科大学（田代美穂、大島三和、井上大央）帰国	

研修団	その他	
		1月
短期語学ホームステイプログラム［ラトローブ大学（13名）2／12～3／13］ **短期語学ホームステイプログラム**［ユニテック工科大学（13名）2/25～3/22］		2月
		3月
		4月
	リバプールジョンモーズ大学（英国）　秦健一郎氏来学 5／13 クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学（ニュージーランド）　林英樹氏来学　5／31	5月
		6月
外国語学部海外研修（アメリカコース）出発 7／24 経済学部国際事情研修（韓国コース）出発 7／30		7月
外国語学部海外研修（韓国コース）出発 8／1 外国語学部海外研修（中国コース）出発 8／2 経済学部国際事情研修（ニュージーランドコース）出発 8／5 学生自治会代表団（大田大学校）（学生16名、引率 3 名）　8／8～8／10 外国語学部海外研修（アメリカコース）帰国 8／22 外国語学部海外研修 （韓国コース）帰国 8／27 経済学部国際事情研修 （韓国コース）帰国 8／29 外国語学部海外研修 （中国コース）帰国 8／29 経済学部国際事情研修（ニュージーランドコース）帰国 8／30		8月
		9月
	東アジア留学生インターンシップ研修生 3 名を国際交流会館宿泊受入　10／2～10／29 イギリス協定校等訪問（国際交流委員長一行）　10／6、7 モンタナ州立大学副学長訪問団（ノーマン・ピーターソン氏、サミュエル・シェファード氏、ジャネル・ラズムッセン氏）来学 10／25	10月
	セントラル・ランカシャー大学(英国)　天野貴子氏来学　11／15	11月
	創立70周年記念事業学長と行く社会人のための海外研修ベトナム国家大学ハノイ校を訪問　12／21	12月

平成23(2011)年度　出身国・地域別外国人留学生在籍者数

春学期

（5月1日現在）

地域	国籍	学部学生					研究生			大学院生						留学生交換	合計
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3	計		
欧米	アメリカ U.S.A.															1	1
	イギリス U.K.															2	2
	カナダ Canada															2	2
アジア	韓国 Korea		1			1										4	5
	中国 China	9	7	10	3	29	2		2	10	7	1	0	2	20	4	55
	台湾 Taiwan			1		1										1	2
	タイ Thailand															1	1
	ベトナム Vietnam															1	1
	ミャンマー Myanmar													1	1		1
南米	ブラジル Brazil						1		1								1
	合計	9	8	11	3	31	3	0	3	10	7	1	0	3	21	16	71

【10カ国・地域　71名】

秋学期

（10月1日現在）

地域	国籍	学部学生					研究生			大学院生						留学生交換	合計
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3	計		
欧米	アメリカ U.S.A.															7	7
	イギリス U.K.															2	2
	カナダ Canada															2	2
アジア	韓国 Korea															4	4
	中国 China	9	7	9	3	28	2		2	10	5	1	0	2	18	3	51
	台湾 Taiwan			1		1										1	2
	タイ Thailand															1	1
	ベトナム Vietnam															1	1
	ミャンマー Myanmar													1	1		1
南米	ブラジル Brazil						1		1								1
	合計	9	7	10	3	29	3	0	3	10	5	1	0	3	19	21	72

【10カ国・地域　72名】

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ

平成23(2011)年　留学生参加行事

名　　称	主　　催	内　　容	期　日
第17回 米国人留学大学生との交流会	熊本日米協会	米国人留学生と協会員との交流	1月27日(木)
ユネスコ能楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	能面の体験・仕舞の鑑賞など	1月29日(土)
第29回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	2月16日(水)
ミャンマー事情と伝統的なお菓子	熊本市国際交流振興事業団 熊本県日中友好協会	アジアの食と文化を通じての 市民交流会	2月27日(日)
第2回　若楠会鑑賞能	肥後金春流保存会	能の鑑賞	2月27日(日)
第17回定期演奏会 GREEN CONCERT 2011	熊本学園大学　グリーンフィル ハーモニックオーケストラ	クラシックコンサート	2月27日(日)
人形浄瑠璃　文楽	熊本県立劇場	文楽 「仮名手本忠臣蔵」・「曽根崎心中」	3月4日(金)
ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	人吉へのユネスコ会員との小旅行	3月6日(日)
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学国際教育課	防災センターで消防事情講話と地震・ 台風・火災体験	4月5日(火)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	5月14日(日)
第21回 外国人留学生弁論大会	熊本学園大学 国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月11日(土)
秋津公民館での市民交流	秋津公民館	「台湾」についての講和と交流会	6月8日(水)
加藤清正公を知るバスツアー	熊本市	加藤清正縁の地をめぐり、熊本への 理解を深めるバスツアー	7月17日(日)
ホームステイ体験	城南町フレンドシップクラブ	城南町の家庭へのホームステイ	7月22日(金) ～7月24日(日)
第33回 火の国祭りおてもやん総踊り	「元気だ！くまもと」観光事業 実行委員会と熊本市	熊本市国際交流振興事業団から留学生 チームとして参加	8月6日(土)
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学国際教育課	防災センターで消防事情講話と地震・ 台風・火災体験	9月15日(木)
国慶節祝賀会	熊本県華僑総会	中国人留学生を招いての交流会	10月1日(土)
体育祭	熊本学園大学体育常任委員会	体育祭へ参加	10月22日(土)
秋の新入生歓迎バス旅行	熊本学園大学 国際教育課	宮崎高千穂峡・五ヶ瀬ワイナリー見学	10月27日(木)
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	学園祭	10月28日(金) ～10月30日(日)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	10月30日(日)
「球磨川物語」	(財)熊本県立劇場	伝承芸能の鑑賞	11月5日(土)
留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	「もし私が熊本の宣伝部長だったら」を テーマに発表とディスカッション＆餅つき	12月3日(土)
留学生スポーツ交流会	熊本学園大学第一部学生自治会 学生議会	本学日本人学生と留学生とのスポーツ 交流と懇親会	12月17日(土)
外国人留学生のための就職説明会	熊本県	外国人留学生の採用を考える企業を交 えての就職説明会	12月18日(日)

交換教員往来

パク　フン　シック
朴　興　植先生
（韓国・大田大学校　交換教員）
2011年３月から１年間
韓国語を担当

ウェイ　プー　ジア
魏　浦　嘉先生
（中国・深圳大学　交換教員）
2011年３月から半年間
中国語を担当

平成23(2011)年度　研修団往来

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
経済学部国際事情研修 ニュージーランドコース	８月５日(金)～８月30日(火)	26日間	ユニテック工科大学	23名
経済学部国際事情研修韓国コース	７月30日(土)～８月29日(月)	31日間	韓国外国語大学	４名
外国語学部海外研修アメリカコース	７月24日(日)～８月22日(月)	30日間	ベセル大学	35名
外国語学部海外研修韓国コース	８月１日(月)～８月27日(土)	27日間	梨花女子大学校	26名
外国語学部海外研修中国コース	８月２日(火)～８月29日(月)	28日間	吉林大学	17名
学生自治会代表団	８月８日(月)～８月10日(水)	３日間	大田大学校	学生16名 引率３名

〈海外への派遣学生数〉

	派遣先大学名	平成23(2011)年度			平成22(2010)年度まで			
		交換	短期交換	HSP*	交換	短期交換	HSP*	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学	3			57			25
	モンタナ大学				21			
	キャロル大学				28			22
	ロッキーマウンテン大学							4
	インカーネットワード大学	2			26			
	アワーレディオブザレイク大学（熊本市交流事業）				7			
	ウィスコンシン大学オークレア校				10			
カナダ	セント・メアリーズ大学	2	2		20			
	カールトン大学				10			
イギリス	リバプールジョンモーズ大学	1			38	11		89
	アルスター大学				8			19
フランス	リヨン商科大学				2			
	ポワチエ大学				1			
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学							16
オーストラリア	ラトローブ大学	2			23		123	
ニュージーランド	ユニテック工科大学	3	1	25	21	6	78	14
韓国	大田大学校	4			57			
中国	深圳大学	2			46			
	中国人民大学				8			
	北京外国語大学	1			9			
	北京語言大学	1			8			
	北京第二外国語学院	1			5			
	広西師範大学（熊本市交流事業）				9			
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校				5			
タイ	チュラロンコーン大学				4			
	合　計	22	3	25	423	17	201	189

※注１　網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学
※注２　短期派遣留学（２ヶ月派遣）は、平成18年度をもって終了
※注３　短期交換留学（１学期派遣）は、平成20年度開始

*短期語学ホームステイプログラム

国際交流派遣の記録　1982年～2011年

	派遣先大学	交換	短期交換	短派遣	HSP	モンタナサマーP	学生研修団	合計
アメリカ	モンタナ州立大学	60		25				85
	モンタナ大学	21						21
	キャロル大学	28		22				50
	ロッキーマウンテン大学			4				4
	インカーネットワード大学	14						14
	インカーネットワード大学（熊本市交流事業）	14						14
	アワーレディオブザレイク大学（熊本市交流事業）	7						7
	ウィスコンシン大学オークレア校	10						10
	合　計	154		51				205
カナダ	セント・メアリーズ大学	22	2					24
	カールトン大学	10						10
	合　計	32	2					34
イギリス	リバプールジョンモーズ大学	39	11	91				141
	アルスター大学	8		19				27
	合　計	47	11	110				168
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学			16				16
	合　計			16				16
フランス	リヨン商科大学	2						2
	ポワチエ大学	1						1
	合　計	3						3
オーストラリア	ラトローブ大学	25			121			146
	合　計	25			121			146
ニュージーランド	ユニテック工科大学	24	7	14	115			160
	クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学							
	合　計	24	7	14	115			160
韓国	大田大学校	61						61
	合　計	61						61
中国語圏	深圳大学	48						48
	中国人民大学	8						8
	北京外国語大学	10						10
	北京語言大学	9						9
	北京第二外国語学院	6						6
	広西師範大学（熊本市交流事業）	9						9
	崑山科技大學							
	合　計	90						90
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	5						5
	合　計	5						5
タイ	チュラロンコーン大学	4						4
	合　計	4						4
合　計		445	20	191	236	128	265	1285

※交換＝交換留学（１年）、短期交換＝短期交換留学（１学期）、短派遣＝短期派遣留学（約２ヶ月）
HSP＝短期語学ホームステイプログラム（約４週間）
モンタナサマーP＝モンタナ研修サマープログラム（約４週間）
学生研修団＝韓国コース、中国コース、タイコース、中国・ベトナムコース（約１週間）

国際交流受入の記録　1982年～2011年

	受入先大学	1年	1学期	合計
アメリカ	モンタナ州立大学	47	11	58
	モンタナ大学	2		2
	キャロル大学	18	2	20
	ロッキーマウンテン大学			
	インカーネットワード大学	5		5
	インカーネットワード大学（熊本市交流事業）	21	3	24
	アワーレディオブザレイク大学（熊本市交流事業）	6		6
	ウィスコンシン大学オークレア校			
	合　計	99	16	115
カナダ	セント・メアリーズ大学	15	1	16
	カールトン大学	9		9
	合　計	24	1	25
イギリス	リバプールジョンモーズ大学	36	34	70
	アルスター大学	2		2
	合　計	38	34	72
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学	8		8
	合　計	8	0	8
フランス	リヨン商科大学		1	1
	ポワチエ大学			
	合　計	0	1	1
オーストラリア	ラトローブ大学	4	5	9
	合　計	4	5	9
ニュージーランド	ユニテック工科大学	6	11	17
	クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学			
	合　計	6	11	17
韓国	大田大学校	90		90
	合　計	90	0	90
中国語圏	深圳大学	46		46
	中国人民大学			
	北京外国語大学			
	北京語言大学			
	北京第二外国語学院	6		6
	広西師範大学（熊本市交流事業）	10		10
	崑山科技大學	2		2
	合　計	64	0	64
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	11		11
	合　計	11	0	11
タイ	チュラロンコーン大学	7		7
	合　計	7	0	7
合　計		351	68	419

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

国際交流委員長 Chair	司馬　公周 SHIBA, Koshu	
商学部 Faculty of Commerce	吉永　心一 YOSHINAGA, Shinichi	波積　真理 HAZUMI, Mari
経済学部 Faculty of Economics	金　栄　緑 KIM, Youngrok	浪本　浩志 NAMIMOTO, Hiroshi
外国語学部 Faculty of Foreign Languages	米岡ジュリ YONEOKA, Judy	柴　　公也 SHIBA, Koya
社会福祉学部 Faculty of Social Welfare	黒木　邦弘 KUROKI, Kunihiro	藤本　延啓 FUJIMOTO, Nobuhiro
国際教育課 Office of International Education	上田　信行 UEDA, Nobuyuki	切通しのぶ KIRITOSHI, Shinobu

OFFICE STAFF MEMBERS

国際教育課スタッフ

課長	上田　信行 UEDA, Nobuyuki
課長補佐	切通しのぶ KIRITOSHI, Shinobu
	大澤　　孝 OSAWA, Takashi
	大洞　時子 OHORA, Tokiko
	田原亜矢子 TAHARA, Ayako
国際交流会館（事務室）	栗原　隆昭 KURIHARA, Takaaki

OFFICE HOURS

窓口業務時間

平　日	Monday－Friday	9：00～12：30	13：30～17：00
土曜日	Saturday	9：00～12：30	

CONTACT ADDRESS

問い合わせ先

〒862-8680
熊本市大江２丁目５番１号
熊本学園大学　国際教育課
ＴＥＬ　096-366-3230
ＦＡＸ　096-372-4112

Office of International Education
Kumamoto Gakuen University
2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL +81-96-366-3230
FAX +81-96-372-4112

E-mail：ip-kgu@kumagaku.ac.jp
ＵＲＬ：http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/index.htm

平成24(2012)年１月発行

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL 096-364-5161(代)
FAX 096-372-4112
［ホームページ］ htttp://www.kumagaku.ac.jp/